

G20閣僚会合等の結果概要

平成18年9月
農林水産省

1. 日時・場所:9月9日(土)、10日(日)

於リオ・デ・ジャネイロ(ブラジル)

2. 出席者:我が国 中川農林水産大臣、村上農林水産審議官、吉村国際部長、北村経済産業審議官、藤崎寿府代大使ほか

米 国 シュワブ通商代表

E U マンデルソン貿易委員

G20 各国閣僚(ブラジル:アモリム外務大臣、インド:ナート商工大臣ほか)

バンクラデシュ、ベナン、モーリシャス、ザンビア

ラミーWTO事務局長

3. 概要

(1) 9日(土)には、G20 諸国及び招待された途上国の会議が行われ、以下の内容のプレス・ステートメントが公表された。

- ① WTO 交渉が中断され、多角的貿易システムが危機に晒されている状況は、途上国にとって受け入れがたいもの。途上国は交渉を即時に再開する用意があり、そのために努力することを確認。
- ② ドーハ・ラウンドの中心は農業。削減約束の比例性、SP、SSM など、交渉の全ての分野で途上国に対する配慮(S&D)が重要。また、LDC に対する無税無枠措置、綿花問題、新規加盟国や小規模経済国への配慮、熱帯産品、特惠浸食の問題への対処が必要。さらに、「貿易のための援助」に対する追加的な資金の確保を要求。
- ③ 枠組み合意や香港閣僚宣言を改訂することなく、先進国が農業の国内支持や市場アクセスで大きく提案を改善する必要。
- ④ WTO 事務局長に対し、包括的かつ透明性のある形で加盟国との協議プロセスを強化し、交渉再開のための条件作りを行うよう促す。

(2) 10日(日)は、我が国、米国、EU と、G20 等途上国との会議がそれぞれ開催された。

我が国と G20 等途上国との会議においては、中川大臣より、

- ① 我が国はラウンドの早期再開に向け努力する所存であること
 - ② 今次ラウンドは開発ラウンドであり、SP や SSM について支持していること
 - ③ LDC に対する無税無枠措置や途上国への開発支援措置は、ラウンドの一環ではあるが、我が国が公表した開発パッケージは、粛々と進めていくこと
- 等を紹介。これに対し、ブラジル等からは、我が国のラウンド交渉進展に向けた姿勢を評価する一方、上限関税や TRQ 拡大、青の政策の上限等について、G10 の立

場よりも更に一步進められないか等の発言。バングラデシュ、インド等からは、日本の開発支援の努力を評価する発言。

(3) 10日に開催された閣僚昼食会においては、ラミーWTO事務局長より、概要以下のスピーチがなされた。

- ① 交渉再開のためには、(ア)再開するか否か、(イ)どのように再開するか、(ウ)いつ再開するか、の3点に対する答が必要。(ア)については各国が交渉再開の意思を示している。(イ)については、7月時点の状態から再開することとし枠組み合意や香港宣言を蒸し返さないことについて合意がある、(ウ)については多くの事項が関連しているが、3月中旬にはTPA延長や農業法をどうするかが明確になるのではないかと。
- ② 交渉再開のためには、政治的意思とともに、技術的作業が熟していることが必要であり、特に、特別品目(SP)についての技術的作業が必要。

(4) このほか、同会合の期間中、中川大臣は、シュワブ USTR 代表、マンデルソン EC 委員、ナート・インド商工大臣、アモリム・ブラジル外務大臣、ラミーWTO事務局長等と会談を行い、ラウンド再開に向けた意見交換を行った。

(以上)